

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成27年6月18日 (2015.6.18)

【公表番号】特表2014-516708(P2014-516708A)
 【公表日】平成26年7月17日 (2014.7.17)
 【年通号数】公開・登録公報2014-038
 【出願番号】特願2014-512167(P2014-512167)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 25/10 (2013.01)

【F I】

A 6 1 M 25/00 4 1 0 B

A 6 1 M 25/00 4 1 0 N

【手続補正書】

【提出日】平成27年4月24日 (2015.4.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

カテーテルのバルーンに圧着された骨格であって、前記カテーテルは、遠位端を有し、前記骨格は、前記遠位端の近位で前記バルーンに圧着される、骨格と、

前記骨格上に配置され、前記カテーテルの遠位端の延在部と、前記骨格の近位に配置される干渉突起部を形成する部分と備える第 1 のシースと、

前記骨格および前記第 1 のシース上に配置され、前記骨格および前記第 1 のシースに前負荷を印加して前記第 1 のシースと骨格との間の接触を維持する第 2 のシースとを具備する装置であって、

前記第 1 のシースは、前記干渉突起部を前記第 2 のシースが前記骨格から除去された場合にのみ前記骨格から外すことができるように、前記第 2 のシースが前記延在部に移動した後にのみ、前記骨格から除去することができ、

前記装置は、前記第 1 のシースおよび前記第 2 のシースを前記カテーテルから除去する際に、患者に導入するのに好適な医療デバイスとして構成される、装置。

【請求項 2】

前記第 1 のシースは、前記骨格の長さに等しいおおよそその長さ分、前記カテーテルの遠位端の遠位方向に延びる、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記第 1 のシースは、前記第 1 のシースの近位部分を形成する、第 1 および第 2 の分離可能な半部を含む、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記第 1 のシースは、第 1 の長さおよび第 2 の長さの合計である全長を有し、前記第 1 の長さは、おおよそ前記骨格の長さであり、前記第 2 の長さは、前記第 1 の長さ以上であり、前記第 2 の長さは、前記第 1 のシースが前記遠位端の遠位方向に延在する量とおおよそ同程度である、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 5】

前記第 1 の長さにわたって配置される前記第 1 のシースの第 1 の部分は、前記第 1 のシースの半部を形成する切り込みを備え、前記第 2 の長さにわたって配置される前記第 1 のシースの第 2 の部分は、実質的に、前記切り込みを欠いている、請求項 4 に記載の装置。

【請求項 6】

前記第 1 のシースの前記第 2 の部分は、その遠位端および近位端に、隆起部分を含む、請求項 5 に記載の装置。

【請求項 7】

前記第 1 のシースは、少なくとも前記骨格の長さ分、前記遠位端の遠位方向に延在する、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 8】

前記第 1 のシースは、前記骨格の長さを上回る分、前記遠位端の遠位方向に延在する、請求項 7 に記載の装置。

【請求項 9】

前記第 1 のシースは、前記第 1 のシースが前記骨格およびバルーンの近位端の近位方向に配置されることを阻止することが可能な大きさを有する当接部を含む、請求項 2 に記載の装置。

【請求項 10】

前記当接部は、前記第 1 のシースの圧着部分を含む、請求項 9 に記載の装置。

【請求項 11】

前記第 1 のシースおよび前記第 2 のシースは、(a) 前記第 2 のシースが前記骨格または前記カテーテルの遠位端の実質的に遠位の位置に変位されるように、前記第 2 のシースを前記第 1 のシースの外面に沿って遠位方向に引っ張ること、および (b) 前記第 1 のシースが、実質的に遠位の位置に移動された後、前記第 2 のシースを前記第 1 のシースの延在部に対して引っ張ることによって、前記骨格から前記第 1 のシースを除去し、それによって、前記第 1 のシースを前記第 2 のシースとともに遠位方向に変位させることによって、前記装置が患者内に導入されるのに好適な医療デバイス内に構成されることが可能であるように、互いに対して配設される、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 12】

前記カテーテルが管腔を有するシャフトを有し、さらに、

前記シャフトの前記管腔内に配置される芯金を備え、

前記芯金、第 1 のシース、および第 2 のシースは、前記芯金を把持しながら前記第 2 のシースを前記第 1 のシースの延在部に対して引っ張ることによって、前記管腔から前記芯金、および前記骨格から第 1 のシースを同時に除去し、それによって、前記第 1 のシースを前記第 2 のシースとともに遠位方向に変位させ、前記カテーテルのシャフト管腔から前記芯金を除去することによって、前記装置が患者内に導入されるのに好適な医療デバイス内に構成されることが可能であるように、互いに対して配設される、請求項 11 に記載の装置。

【請求項 13】

前記第 1 のシースは、ともに前記干渉突起部を形成する上半部と下半部とを含む、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 14】

前記第 1 のシースは、前記干渉突起部の近位方向の隆起部を含む、請求項 13 に記載の装置。